

\*\*\*\*\*

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 410 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2019.04.10（水）発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の  
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

---

<山崎農業研究所第 161 回定例研究／映画『武蔵野』上映会のお知らせ>

1. 内容：映画『武蔵野』上映会と講演
2. 日時：2019年4月26日（金）15：00～17：40
3. 場所：NTC コンサルタンツ会議室  
（東京都中野区本町1丁目32番2号 ハーモニタワー20F  
東京メトロ丸ノ内線・中野坂上駅徒歩3分）
4. 参加費：500円
5. 研究会の内容：
  - (1)所長挨拶 15：00～15：05
  - (2)上映 15：05～16：56 上映時間 111分  
映画『武蔵野～江戸の循環農法が息づく～』  
<http://www.cinema-musashino.com/index.html>
  - (3)講演と意見交換 17：10～17：40 約30分  
講師：原村政樹監督または鈴木敏夫プロデューサー
7. 懇親会 17：50～18：50〔会費4000円〕

参加申し込み先

TEL：080-2061-4227（山崎農業研究所事務局・益永携帯）

E-Mail：yahiro\_mas@docomonet.jp

□ 目次 □-----

<巻頭言>

黒ボク土と武蔵野台地 ～「武蔵野」上映会に寄せて～ 渡邊 博

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.144』内容案内

<会員著書案内>

安富六郎著『武蔵野・江戸を潤した多摩川——多摩川・上水徒歩思考』

<編集後記> 「働く」って何だろう

---

<巻頭言> 黒ボク土と武蔵野台地 ～「武蔵野」上映会に寄せて～

---

## ■厄介な黒ボク土

日本には、山地に褐色森林土、台地に火山灰土（黒ボク土）、低地にこれらが侵食堆積してできた水田土壌が広がっている。火山灰土は私のような建設関連の技術者にとっては非常に厄介な土である。一見乾燥しているような土でも、押したり練ったりすると水分が出てきて柔らかくなる。力を加えると強度が低下してしまうのである。

黒ボク土は農地土壌としても結構厄介な土である。黒ボク土は黒くふさふさしていかに農地に最適な土のように見える。しかし、火山灰土特有の強酸性土壌で、しかもリンが大好きとあって、自分で抱え込んで作物にリンをおすそ分けしてくれない、ちょっとケチな土壌である。油断すると軽いものだからすぐ風に飛ばされて他所へ逃げ出してしまうというシャイなところもある変わり者である。黒ボク土地帯では作物の栽培が難しく、すすき原野であったところが多かったのもうなづける。

土が黒いということは肥沃が進んでいる証拠である。土壌の優等生として知られるチェルノーゼム（東欧）やプレーリー（北米）よりもはるかに肥沃度は高い。なのに長い間農地には向かない土として不平等な扱いを受けてきた。やはり変わり者は差別されやすい。

## ■黒ボク土を「育てる」

黒ボク土が市民権を得たのは、戦後リン酸と石灰の肥料が広まったおかげである。しかし、それ以前にも先人たちはこの変わり者を肥沃な土壌に育ててきた歴史が各地でみられる。武蔵野台地もその一つである。国木田独歩の「武蔵野」の“木漏れ日溢れる雑木林”は、農家の人たちが植林して雑木林、平地林を造成し、その落ち葉を肥料として利用して農地に変えていった努力の末にできあがった風景である。

落ち葉堆肥などの腐葉土は鉄やマンガンなどのミネラル分がイオン化して根が吸収しやすい状態にあり、有機物分解菌で粘土に捕獲されているリン酸を溶かして作物が吸収しやすいようにしてくれる。ついでにカリウムや窒素も補完してくれる。リン酸肥料を過剰投入して変わり果てた黒ボク土も多い中（誰かがメタボ黒ボクと称していた）、自然の循環に委ねた農法は現代でも注目に値する農法である。

## ■伝統技術の継承と豊かな精神文化

土と水は人が生きるうえで必要不可欠なものである。しかし、農業が出来そうな土の量には、土壌改良してやっと農業が出来るというものも含めても限りがある。植物工場のように土を使わない農業もあるが、膨大な電力、肥料のコストを考えれば、それも限界があるだろう。そのためか、土を巡るきな臭い話が地球上で起きつつある。世界中の地域紛争の原因は、実は土と水の争いだったということは意外に少なくない。水や土の収奪というと、大概食物を通じての間接的収奪と思いがちであるが、ある国は東欧のチェルノーゼムの土地を買い占めに、ある国は土壌改良をするだけの資金が無い貧しい国から土壌そのものを買付けるとかいう、直接的収奪が実際に起きていると聞く。

日本には、ちょっと偏屈だが潜在能力が非常に高い黒ボク土がある。ほとんど日本にしかないと言っていいくらいの珍しいこの土を大切にしない手はないだろう。ちなみに、世界的に枯渇しつつあるリンを黒ボク土は大量に含んでいるので、技術革新が進めば、日本はリンの資源大国になるかもしれないなどと、ついつい夢想してしまう。

ドキュメンタリー映画「武蔵野」の上映会が、山崎農業研究所主催で開催される。この映画では、江戸時代から続く伝統的な循環農業（落ち葉堆肥農法）と、その技術を受け継いで豊かな精神文化を育んできた人々の営みを描いていると聞いている。土に関わってきた技術者としても上映会を非常に楽しみにしているところである。

渡邊 博

山崎農業研究所事務局長

yamazaki@yamazaki-i.org

---

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.144』内容案内

---

山崎農業研究所所報『耕 No.144』の内容を紹介いたします。

ご希望の方には雑誌を頒布いたします。

yamazaki@yamazaki-i.org

までご連絡ください。

《土と太陽と》(巻頭言)

Good Agricultural Production=GAP で日本農業は変わるか◎岩元明久

[第 159 回定例研究会] 農福連携にみる「農」の可能性

I 農福連携の広まる背景と動向◎濱田健司

II ノーマライゼーションから農マライゼーションへ◎石田周一

[特別寄稿]

農作業の手伝いから地域農業の担い手へ◎吉田行郷

福祉施設の小規模な作業から農福連携を考える◎井尻吉門

農福一体—すべての人のためのソーシャルファーマーミング◎新井利昌

富士山麓の恵まれた自然環境を活用した

農業による就労支援の取組み◎高橋 智

イタリアの社会的農業—ヴァルデーラ連合区の事例から◎中野美季

〈連載〉

“生きもの語り”の世界から (15) 経験の知の再発見／宇根 豊

〈農村定点観測〉

農業法人の今後に楽しみながら迷う／福島県・大河原 海

小農学会に参加して／栃木県・小林俊夫

生産者の熱意で育てられた「越の丸なす」◎新潟県・吉原勝廣

---

<会員著書案内>

安富六郎著『武蔵野・江戸を潤した多摩川——多摩川・上水徒歩思考』

---

安富六郎著『武蔵野・江戸を潤した多摩川——多摩川・上水徒歩思考』

農文協、199 ページ、定価 1700 円 (税別)

<http://www.amazon.co.jp/dp/4540142631>

※山崎農研 HP に関連記事を掲載しています。

玉川上水の奇跡「ひとくい川」(第3話)連載 安富六郎 著

[http://www.yamazaki-i.org/img/Hitokui\\_No3.pdf](http://www.yamazaki-i.org/img/Hitokui_No3.pdf) 第3話

[http://www.yamazaki-i.org/img/Hitokui\\_No2.pdf](http://www.yamazaki-i.org/img/Hitokui_No2.pdf) 第2話

[http://www.yamazaki-i.org/img/Hitokui\\_No1.pdf](http://www.yamazaki-i.org/img/Hitokui_No1.pdf) 第1話

---

<編集後記> 「働く」って何だろう

---

長男の通っていた県立高校に、哲学者の内山節さんをお招きして講演いただいた。テーマは、「『働く』って何だろう」。

内山さんは群馬県の上野村と東京を行ったり来たりしながら暮らしている。東京だと、雇われてそれでお金をもらって買いものをして暮らすといった感じだが、上野村だと自分たちでいろいろな仕事をしながら皆で暮らしをつくっていくという感じがある。村での仕事には、畑仕事もあるし、山の仕事もあるし、祭りを準備する仕事もある。暮らしとともに仕事がある、地域のなかに仕事がある…というのが村での仕事——そんな語りから講演会ははじまった。

歴史的にみると百姓を中心にした「自営」の人々がほとんどであるような時代がずっと続いていた。皆が雇われることを普通と思うようになったのは、ここ数十年のことではない、と内山さんは言う。

では、雇われてお金をもらって…というの時代が暫く続いた現在、どんな光景がわたしたちの前に広がっているのか。

これまでの価値観だと優れた人たちと思われていた高級官僚が国会で嘘をつき、世界的に有名な自動車会社の(元)会長がその富でベルサイユ宮殿で結婚式をあげ、経団連の会長が、「原発推進派の人たちは感情的なので議論できない」とそれこそ感情的に語る——ちなみに経団連の会長は原発をつくる会社の会長でもある——。これっていったいな何なんですかね、彼らのやっている仕事って社会的に有益なんですかね、と内山さんは疑問を発する。

一方で、いろいろな場所で、社会に有益な仕事＝ソーシャルビジネスがさまざまなかたちで始まっている。それは、雇われることに人々が飽きてきた時代、

だからいろいろな働き方を模索する時代が始まっているということでもあると。

自分はNPOにも関わっているけれども、そこには「もう一つの仕事」をつくりたいという気持ちもある。一つの仕事をしているだけでは、その考え方ができない。複数の仕事ができれば、それだけ考え方の幅も広がるし、人間関係も豊かになるとも。

最後に内山さんはこう語った。

「仕事とはどんな生き方がしたいかということ」

「いま、勝ち組とか負け組とかいわれ、勝ち組になるために頑張っている大学行っていい会社に就職してみたいな価値観を強要するシステムがある。でもその一方で、そういう考え方が本当にそうなんだろうかという問いを發したならば、勝ち組・負け組というのが馬鹿馬鹿しい基準になってしまう」

「ものごとの考え方というのはたった一つの正解はない。正解はそれぞれがつかむしかない」

この会には90名弱の人が参加した。うち、学生が20人ほどいただろうか。彼らは、内山さんの言葉をどんなふうに受け止めたか。

いま、「就活」まっさかりである。給料の良し悪しや休みの多い少ないもたしかに疎かにはできない。しかし、ほんの少し立ち止まって「自分は仕事を通じてどんな生き方がしたいのか」という問いを發することも大事なのではないか。

2019年04月08日

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

---

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売

『自給再考——グローバル化の次は何か』

(発売：2008/11 定価：1,575円)

[http://shop.ruralnet.or.jp/b\\_no=01\\_4540082955/](http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/)

たくさんの方の書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

---

◎辻信一さん（文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授）

グローバルの次は何？ ～卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん（大地を守る会）

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん（長野県農業大学校教授、執筆者）

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

[http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry\\_id=1822182](http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182)

◎関良基さん（拓殖大学政経学部）

ブログ：代替案 書評：『自給再考ーグローバル化の次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん（イラストレーター・ライター）

ブログ：囲炉裏暖炉のある家 tortoise+lotus studio 「書評『自給再考』

<http://iroridanro.net/?p=15533>

◎ブログ：本に溺れたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>

◎日本農業新聞／書評

（2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優）

<http://yamazaki-i.org/>

（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）

◎小谷敏さん（大妻女子大学）

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ（2009/01/31）

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

◎白崎一裕さん（(株)共に生きるために）

月刊とちぎV ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）

◎塩見直紀さん（半農半X研究所、執筆者）

ブログ：半農半Xという生き方～スローレボリューションでいこう！

立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

---

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

---

- 1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。
- 2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。
- 3、1回1テーマ、10行位に。
- 4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。
- 5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

[http://www.csj.jp/learned-society/check/new\\_but/jisx0208-sjis.html](http://www.csj.jp/learned-society/check/new_but/jisx0208-sjis.html)

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

-----

次回 411 号の締め切りは 04 月 22 日、発行は 04 月 25 日の予定です。

---

<本誌記事の無断転載を禁じます>

\*\*\*\*\*

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 410 号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2019.04.09（火）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

\*\*\*\*\* ここまで『電子耕』 \*\*\*\*\*